

地域の声を町へ

鶴田町行政推進員と町との意見交換会



行政推進員と町との意見交換会

4月25日(火)、町国際交流会館で「行政推進員と町との意見交換会」が開催されました。各地区の行政推進員からは地域の声を代弁してさまざまな意見や要望が出されました。今回は意見交換会の内容の一部をご紹介します。

空き小屋について

Q [田の尻]

数年前 個人所有の物置小屋が倒壊し、中にある農耕具等が付近に散乱する出来事がありました。所有者は死亡していて、息子が管理しているものの本人にやる気がないため、仕方なく息子の了解のもと、近所の住民で建物の木材部分は撤去しましたが、中にあった農耕具等は処分できませんでした。

現在は、風で飛ばないようにネットを掛けて放置していますが、その息子が病気で入院してしま、今後も山積みのまま放置されるものと思われま。

町での対応は難しいと思います。が、本人の状況や景観上の問題も考慮していただき、撤去費用の助成等を検討していただきたいと思っています。

A (総務課長)

空家対策につきましては、昨年、鶴田町空家等対策計画を策定し、「空家等を適正に管理し、放置しない」、「空家等を積極的に活用し、循環させる」、「危険な空家等を抑制する」ことを基本方針に、空家等の対策を定めております。

計画の中では、空家の除却等に関する補助について検討することとしております。

鶴田町営住宅の適正管理について

Q [みづの町]

鶴田町には町営住宅が、東団地・鶴寿団地・みどり団地・みどり第2団地に合計261戸設置されています。

町長・議長が発信されている駅東団地の建て替え・若者向けの住宅建設については、非常に大切なことであると理解しています。しかし、町営住宅の管理については疑問を抱いているところもあります。それは、空家の問題です。みどり団地・みどり第2団地においては、明らかに生活をしていないと思われる住宅が2戸存在しています。私の知る限りでは、そのうちの1戸は10年以上も空家状態が続いているように思っています。もちろん、2戸とも住宅の家賃についてはお支払いをしているものと思いますが、それでも疑問を感じています。

町営住宅設置および管理条例、管理施行規則では、「住宅に困窮していることが明らかなもの」、「町内に住宅又は勤務場所を有す



るもの」等の入居資格条項や、入居者については「正常な状態において維持すること」が義務づけられているはずですが、現状では、到底それが守られているとは思えません。町営住宅建て替え等を考える・考えない以前の問題かと思えます。不在届が適正に届けられているのか、町営住宅管理人・鶴田町営住宅入居者選考委員会が適正に機能しているのか疑問を抱かせることにつながりかねません。

他の町営住宅にこのような事例はないと思いますが、町の貴重な財産を適正に管理していただき、今後の建て替え事業などに疑問を抱かせることのないよう対応をお願いいたします。

A (建設整備課長)

町営住宅の入居者については皆さまからさまざまな情報を頂

平成29年度
鶴田町行政推進員

町内・集落名	氏名
立派	齋藤 恭蔵
寺町	竹浪 秀治
仲町	上原 英夫
本町	長内 光男
駅前通り	澤田 直廣
田中町	鶴谷 和美
桜町	松山 久志
富士見町	月永 洋子
公園通り	松江 俊一
文化通り	神 隆夫
鷹ノ尾	藤田 保
相原町	永田 房男
みどり町	澁谷 兼幸
あさひ町	浅利 繁
駅前町	佐々木 年一
大性	三浦 行雄
菖蒲川	野宮 行雄
鶴泊	森 良一郎
亀田	坂本 康博
新田子	坂本 春義
大巻	嶋谷 勝廣
強巻	小田桐 貞三
胡桃館境	花田柳 太郎
須郷	須郷 恵
中野	工藤 義孝
山道	澁谷 信一
桂井	須藤 貞夫
稲川	澁谷 東悦
尾原	須藤 繁喜
田の尻	岡 雄一
野木	長内 一敏
間山	成田 豊昭
木筒	小山内 英樹
鶴寿団地	木村 敏夫
前中野	長内 隆
後中野	棟方 廣光
掛元	天坂 則行
米元(共栄)	長谷川 隆
稲元	石澤 秋彦
東瀬良沢	安田 茂則
西瀬良沢	高橋 尚史
沖	佐々木 正樹
横菴	松山 幸三
松倉	安田 銀弥

町観光にかかる環境
整備等について

Q 〔山道〕 昨年から、JR東日本のポスターに鶴の舞橋が掲載されるなどしたことから、観光客数も増加してきました。この機会を千載一

いております。ご指摘されていると思われる入居者に対しては昨年、入居実態の聞き取りや退去の申し入れを行ってきましたが、「たまにきている。今後住宅を中心に生活する予定だ。退去の意思は今のところない」等の回答を得ています。入居資格については、他の住宅同様、入居時には入居条件を満たしていますが、その後、家族構成や職場などの生活環境の変化が生じることもあるため、プライバシー等も考慮しながら慎重に対応しているのが現状であります。万が一悪質な場合には法的措置を講じることも考えられます。

A 〔企画観光課長〕 観光に係る環境整備については、町民の参加による取り組みのほか、業者に委託するなどしておりますが、目の行き届かない箇所もあり、たびたび指摘を頂戴しておりますので、しっかりと対応してまいりたいと思います。自然体験については、富士見湖パークを起点に、財産区の森林の中を散策する「ちよこつと里山体験ウォーク」を実施しており、さらに活用されるよう周知してまいります。また、新たに、外国人観光客に対する外国語表記マップの設置

遇のチャンスとして舞橋周辺の環境整備や自然体験・農業体験などのグリーンツーリズムの推進、外国人観光客への対応等について具体的に進めていく必要があるかと思えます。

小学校統廃合について

〔山道〕

Q 児童数の減少により、平成24年度から菖蒲川・梅沢・水元中央小学校が複式学級編成となり、統合する年には、鶴田小学校を除いた5校が複式学級となるようです。このように適正集団による教育活動ができなくなるなど、学校における健全な教育環境や教育活動ができない状態まで統廃合が遅れた理由を説明してください。

9月に「鶴田町立小学校の規模と配置の適正化に関する基本方針」を策定し、学区再編案として鶴田小学校、菖蒲川小学校、胡桃館小学校、梅沢小学校の4校を統合し1校に、また、富士見小学校、水元中央小学校の2校を統合し1校にする全町2学区制にすることをしました。

A 〔教育次長〕 町では、少子化の影響により児童生徒数が減少し、それに伴うさまざまな教育活動上の課題が出てきていることから、平成25年

「統廃合が遅れた理由」については、それぞれの時点における検討の結果でありますのでご理解をお願いいたします。



設計が完了しており、平成29年度は実施設計、平成30年度からは建設工事に着手する予定となっております。校名、校歌、校章、学校行事等のソフト面についても本年度から統廃合小学校準備委員会(仮称)を設置し検討する予定となっております。平成32年4月の開校を目指しております。